

園田苑

ふ

わ

りん

こ

風話鈴香

第111号

平成26年10月

編集・発行

社会福祉法人

阪神共同福祉会園田苑広報

〒661-0972

尼崎市小中島 1-1-18

TEL:06-6493-3731

Mail:info@sonodaen.or.jp

ホームページ

<http://www.sonodaen.com/>

私たちの目指すもの

一、地域に開かれた施設

二、入居者、家族、施設、地域のみんで作る福祉を！

三、老人と共に生きがいを見出す生活を！

社会福祉法人阪神共同福祉会園田苑

祝 園田苑 開設26周年



新たな挑戦
未来に向って地域と共に

『治さなくてよい認知症』を読んで

理事長 中村 大蔵

このままいけば、認知症なる言葉は消滅するだろう。なぜなら認知症は増え続けているから。統計学的に言っても65歳以上の高齢者に占める認知症者の比率が50%を超えるのはそう遠い未来のことではない。

なぜなら、認知症は加齢に伴うしごく人間的变化なのであるから。今は、認知症と言われる人たちが相対的に少数派なのだが、多数派にとって代わるのはしごく当然の成り行きである。その時に認知症なる言葉は、果たして存在しているのだろうか。私は常々、認知症は病気なのかと疑問を持っている。痴呆なる呼称を認知症に置き換えた時から、そのことを強く思うようになってきた。さすが今日では「認知症は治る」などと言う人は急激に減少しているが、認知症を医療の対象とし、しかも狭義の治療に取り込もうとしている傾向は根強く残っている。

最近、『治さなくてよい認知症』(上田諭著、日本評論社刊)なる書籍を手にした。著者は大学で社会学を学び、新聞記者を経て医学部に入学。現在は日本医科大学の先生である。この経歴だけでも興味津々ではないか。著者の訴えはその著書の「まえがき」と「あとがき(序章)」に目を通すとよくわかる。私は先ず「あとがき」を読んで、それから「まえがき」に目を通して本文に入る癖がある。同書の序章は「専門医は誰の方を向いて仕事をしているか」から始まる。「忘れてはいけない大事なことは、認知症の人は基本的に困っていない」、治療で第一義的に重要なのは、「人生と生活を意義深く、また生きがいをもって送れるかである」。あとがきで「認知症に携わる専門職の意識が根本的に変わらないと現状は変わりません。とくに、良くも悪くもプライドが強固な傾向のある医師の認識がカギです」と、言い切れるのは医師の“特権”とは言え、未だに経験と勤を主たる根拠にケアをする私たちにも向けられた言葉である。

園田苑創立26周年記念式典 開催！！ ～ 地域とともに、新たな門出 ～

平成26年10月12日(日曜)園田苑創立記念式典が行われました。

今年は日曜日でしたので、昼間の式典となりました。日頃お世話になっている皆様に感謝と労いの気持ちを込めて、ゆっくり楽しんで頂けるように着席を増やしました。乾杯のご挨拶は、特養家族会会長の藤原さんご一家が、入居されているゆた子さんと一緒に執り行って下さいました。ゆた子さんも、しっかりマイクで話しておられ、ご一家の連携の凄さに感動しました。

催しでは、オカリナとヘグム(韓国の民族楽器)を披露して頂き、アリランの曲では、皆で踊り盛り上がりました。



また、お食事は直営厨房の腕の見せ所、沢山の食事を作りました。出来たてのおいしさを味わって頂くために1階は串カツ、2階はステーキ、3階は握り寿司を目の前で調理。

厨房職員濱路さんの寿司は、園田苑では恒例となりました。これはもう、食を越えたエンターテイメント！厨房職員の個性に感謝です！そして、厨房の食事に加えて、地域の色々なお店から看板メニューをお取り寄せしました。本来なら、オードブル専門業者に依頼すれば良いことなのかもしれませんが、でも、地域と一体となった施設を目指している施設なんだから、普通はやめて、園田苑らしさを追求。取り寄せた食事は、酢豚やから揚げ、寿司、サンドイッチ、ケーキ、ゴマ団子、パスタ、チャーハン等々…。田中施設長を始め、多くの職員が奔走して下さいました。



そして、ただ楽しいことを企画するのではなく、多くの方に園田苑をもっと好きになって頂きたい！「園田苑の今」や「現場職員たちの思い」など、私達が日頃話せていないことを知って頂ける場にしたいと思い「セクション報告会」を企画しました。それぞれのセクションで今、取り組んでいること、頑張っていること、熱い思いをのせて報告させて頂きました。

特養では、職員たちの試行錯誤から生まれたケア（個別での過ごし方、生活者としての支援、逆ホームなど）について話しました。ショートステイでは、家や地域との連携に対する取り組みを報告しました。そして、田中施設長から新規事業について報告。24時間サポート型特養では、三浦職員がサービスの概要や実際に登録されて、安心を得られた利用者さんの話を報告しました。それと、小規模多機能居宅介護では、サービスの概要や園田苑の小規模多機能として、どんな支援がしたいのか自分の気持ちを報告させて頂きました。

各セクション報告会の準備にあたって、今まで園田苑がしてきたことを振り返りながら、すべては法人理念に通じていたことを実感しました。創立という法人の行事に携われたからこそ、再確認することができました。理念が、悩んだときの道しるべ。

最後に、沢山の方のご協力があったからこそ、無事に式典を終えることができました。

ご協力頂いた、皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます！本当に有難うございました！

通所介護 主任 秀石 直美



3階『男会』始動 ～ビールはまだか!?!～

3階の入居者男性で男会をしました!!

御園団地近辺にある喃風(なんぷう)というお好み焼きを食べに行きました!!

テーブルには鉄板が設置されており皆さんが火傷しないか、ひやひやしていましたが…みんなお酒を飲んで、食べて、お話ししてすごく楽しそうでした!!

1番印象深かったのがビールがなかなか来ずみんな「まだ、ビール来んのかい」とピリピリしていたことです(笑) やっぱり男で飲みに行くとそういう言葉も出てくるんだなぁとんだか新鮮な気持ちになりました(笑)

で…焼きたてのお好み焼き!!

みんな美味しそうにふ～ふ～しながらおはしやコテで食べました!! コテで食べる姿は普段の食事では、まず見ることがありません!! 中でも杠葉さんがコテで食べている姿が可愛くてたまりませんでした(笑)みんなお腹がパチパチになるほど食べて満足そうでした!!

ショートステイ中に参加された保井さんはみんなでお酒を飲めた事を凄く喜ばれていました!!

またみんなで行きたいなぁと。次はもっと楽しいことを企画しますね!!

特養 ヘルパー 川口 豊



2階『女子会』始動 ～そうか、果物が好きなのか～

私が特養に配属され初めての入居者外出があり、今回はイオンへお買い物とランチに行ってきました!! 入居者の光本さん谷本さん西本さん中西さんの4人と職員4人の計8名で楽しい女子会をさせていただきました!! 西本さんは入居されて間もないので、今回入居者の方と仲良くなれるいいチャンスだと思いました。私も初めての居室担当なので女子会での交流を活かして西本さんに名前を覚えてもらおうと目標をたてていました!(笑)

当日になり皆さんは行くのはまだかなー?ととても楽しみにしておられ、西本さんは楽しみなのか?少しソワソワしている様子でした(笑)



出発しイオンに着くとまず腹ごしらえから!という事でお昼ご飯をフードコートで皆さんと昼食を食べました。皆さん好きなものを職員と選んでいてとても嬉しそうでした。また、ご自分のご飯を交換したりとお互いの料理を楽しんでいる様子を伺うことが出来て良かったなと思いました。

西本さんもうどんを食され途中からは私に「お姉ちゃん! あんたは若いからこれも食べなさい!」と残りを下さるといふ事もありました(笑) 昼食も終わり2人1組で別々にお買い物を楽しむことになり、西本さんに軽く自己紹介し何かお買い物したい物はないか訪ねながらスーパーに入り、果物コーナーの所で「りんごとバナナが食べたいな」と仰られたので購入しました。初めて果物が好きだと知ったのでいい発見が出来たなと思いました。その後も2人でお買い物を楽しみ、途中他の女子会メンバーの皆さんとすれ違った時には手を振ったりなど西本さんもすっかり仲良くなられている様子でした。

買い物途中に私が西本さんに「私の名前はなんですか?」と質問すると最初は悩んで答えて下さっていましたが、途中からは「えりこ! えりこやな! ?」と答えてくれるようになりました。私の名前はえりなんですけどね、(笑) それでも覚えてくださった事が嬉しかったです! 私の目標が達成できて嬉しかったこと、これからも西本さんといいいコミュニケーションを取っていかれたらなと思いました。今回は私にとって良い経験になりました。

特養 ヘルパー 長木 絵里



今年もグループハウスの記念日が近づいてきました。

16周年の今回は入居者だけでなくいつもハウスの事を大切に思っているボランティアさんの為にも少し変わった事がしてみたい！と考え入居者さん達が時々遊びに行かれる大衆演劇の方に来て頂くのはどうかな？と思い立ちました。

しかし、「ここまで来てくれるだろうか」と心配しながらこれまた演劇大好きなモーゼスさんに問い合わせてもらおうと二つ返事で“幸之丞さん”が来て頂けるようになりました。

早速、お知らせのポスターを貼ると皆さん大喜び。昔のことを思い出して「あそこに良く行ったわ」「ここにもあったな」などなど話が盛り上がっていました。私が思ったよりお年寄りにとっては身近なものだったのですね。

当日、きれいな着物を身にまといスポットライト浴びて登場した“幸之丞さん”に「綺麗」の声、ぱっと振り返ると「キャー」と黄色い歓声。握手をしたりハグしてもらったりおひねりも有りの大騒ぎ。終わった後、皆さんの瞳がキラキラされていたのにまたびっくりの楽しい夜でした。



心ときめき瞳キラキラ☆

グループハウスあまがさき

開設16周年記念パーティー

平成26年9月23日(火)



この1年で、新しい所に変わられたりお見送りさせて頂いた方は、6人と1匹。例年に無く変化の大きな年でした。そんな大切な期間を過ごすハウスですから住んでいる間は思いっきり楽しんで頂けるようこれからも色々考えますので、皆様しっかりついてきてくださいね。(グループハウス 下木 薫子)



去る十月十九日 ハウスのボランティア活動にご尽力頂いていました 久保田キヨ子様がお亡くなりになりました。
心よりご冥福をお祈り申しあげます。
ありがとうございます。

(職員、入居者一同)

やっぱり家に帰りたい ～ショートステイ奮闘記④～

今回は番外編として、ショートステイの役割を私たちに教えてくれた、3階特養入居者門田満さんのお話です。やっぱり家に帰りたい

園田苑の認知症対応型デイサービスを利用されながら、ショートステイも利用して下さっていた門田さんは、その後特養の入居者となり、看取りを迎えようとしていました。門田さんの最期に何をしてあげられるのかを考えた3階職員は、ショートステイをご利用されていた頃のお元気な門田さんの記憶を辿ってくれました。

以下は、特養3階職員が最期まで門田さんに寄り添った、看取りの奮闘記でもあります。大川畑ヘルパーが綴ってくれました。

徐々に食事も摂れなくなり、看取りが近づいていることが分かりながら、何をしてあげられるのかが見いだせず、皆が悩んでいました。

そんな時、昔門田さんがショートステイを使われていた際に、夜勤明けの山崎副主任がぼそと言った一言を思い出しました。「夜勤してたら、門田さんが泣きながらダンスを探してはったん。どうしたんか聞いたら、おもらしをしてしまった。人に着替えさせてもらおうとか情けない。申し訳ない。ってまた泣くの。」

寝たきりの状態になってからの門田さんは失禁が絶えず、その度に心では泣いていたのではと思いました。皆にそれを伝え、真剣に失禁予防に取り組もうとした時には水分摂取量も減り、逆に尿が出ない状態になっていました。何でもっとお元気な頃の好きだったこと、嫌がられていたことを思い出せなかったのかと悔やみました。そこから、皆が元気な頃の門田さんを辿ってくれるようになりました。



入居当初の門田さん。逆ホームにてご自宅で奥様の手料理を食べました。

たいそうな準備をしなくても、家に帰れる。これぞ地域の中の施設です。

「門田さんがショートステイの頃、何で毎日お風呂に入れへんの？って聞いてこられたことがある。門田さんはお風呂を心待ちにしていたから。」と聞けば、すぐに中村看護主任に入浴できないかお願いしに行きました。「Drからはいつ呼吸が止まるか分からないといわれている。最期のお風呂になるよ。その覚悟で入れてあげて。私達も立ち会うから。」と言葉をもらい、特殊浴槽でお風呂に入ってもらいました。

お風呂に入ったとたん「わあ～」と久しぶりのお声が聞け、眉間のしわがゆるみ、とっても気持ちよさそうに浸られました。お風呂は本当にそれで最期になりましたが、入浴中に咲いた思い出話は、きっと門田さんも聞いてくれていたと思います。

次に、「ショート中、いつも家に帰りたいうってたね。特養に入って逆ホームをしてからも、次はいつ帰れる？って聞いてたね。」と思い出を辿りましたが、看取りを迎えた門田さんには長時間の逆ホームが難しくなっていました。一度は断念しましたが、「温かいし、苑庭に散歩に行こうか。」「苑庭行くんやったら、近いねんし家まで散歩に行ったらあかんかな。」と短時間逆ホームが始まりました。門田さんの体調を見ながら30分ほどだけ。奥様が迎えに来て下さり、一緒に散歩しながら家まで帰ったりもしました。徐々に体力が低下し、反応も薄くなってきていた門田さんですが、「父ちゃん、家に帰る？」と聞くと、大きく頷かれるのです。家ではいつも座っていたという椅子にも座って頂き、秋の心地良い風に吹かれながら目を頑張って開けられ、家の中をぐるっと見回した後目を閉じられ、気持ちよさそうに座っている門田さんは、本当に幸せそうでした。



門田さんにしてあげられる最期。2週間ほどでしたが、全て職員の自己満足だったかもしれません。でも、何をしてあげられるかを考える時、その人の今までの生活や歴史をたどることができました。お元気な頃の生活やちょっとした一言を、どれだけ拾えているかが重要で、その人らしいケアに繋がるのだと、あらためて感じた時間でした。

3階 特養ヘルパー 大川畑 唯

門田さんが息をひきとられる数時間前、お部屋に会いに行くと、山崎副主任と新川看護師がいました。園田苑では前から取り組んでいる看取りノートも、皆の言葉でいっぱいになっていました。

「お父ちゃん。頑張ったね。もういいんやで。」と門田さんの頭を優しくなでる山崎副主任。それを見ながら新川看護師が「門田さん、昔から頭ぐりぐりされるの嫌いやのにー」と言いながら優しく見守っていました。穏やかな時間が流れていました。

デイサービス家族会の第2回目の集い ～どんなご飯食べてんの？～

デイサービス家族会の第2回目の集いとして、9月20日、認知症対応型デイサービスが行われている支援センター園田苑において、『夕涼み会』が開催されました。参加された8家族の内、3家族が初参加。和やかな雰囲気の中、会が進んでいきました。今回は、「デイサービスでの様子をもっと知りたい！」とのご家族からのご要望を受け、2つの企画を盛り込みました。

1つめは、デイサービスでお出ししている昼食の試食会です。この日のメニューは、栗御飯、串カツ、秋ナスのあんかけ、きのこサラダ、さつま芋の味噌汁。季節感のある食材を豊富に使った、できたてのお食事を召し上がって頂き、ご家族からは、「おいしくて、お腹いっぱいになるね。」との嬉しいお言葉をたくさん頂戴しました。

2つめは、デイサービスでの日常の風景を収めたお写真に、スタッフ達の思いを添えながらのスライドショー。どのご家族も、素敵な笑顔の写真を食い入るように、温かな笑みを浮かべながら、ご覧になっていました。

自宅での介護に、ご苦労されている方も多いことと思います。私達スタッフも、どうすればもっと良い関係が築け、どうすればもっといきいきと毎日を過ごして頂けるのだろうと、試行錯誤の毎日です。でも、利用者さんが掛けて下さる優しい言葉や、素敵な笑顔に励まされ、楽しく介護ができています。私達が感じさせて頂いているような温かい気持ちを御家族とも分かち合い、そして、少しでも前向きな気持ちで日々の生活が送れるように、スタッフ一同、これからも努力を重ねていきたいと思っております。

認知症対応型デイサービス 生活相談員 関口 義信

来年度の法改正で、特養の入居に関して、“要介護3以上”と言われていています。重度にならないと入所ができなくなるような制度になっていく中で、お元気な頃を知っているということはとても大切になってくると思うのです。現場職員自らがショートステイの意義をみつけ、気持ちが言えない門田さんの代わりを一生懸命してくれようと思ってきました。私にも大切なことを教えてくれました。今後、その人らしい看取りの為に、ショートステイだけでなく、ホームヘルプやデイサービスも巻き込み、園田苑で、地域で看取るということを考えています。門田さん、本当にありがとう。



通所介護/短期入居生活介護
生活相談員 深津 智子



『料亭濱』

～大変だけど次もやりたい～



料亭濱は、普段苑にいて、外出が少ない利用者の方に楽しく美味しく食事をしてもらうおうということで始めました。

元板前の濱路さんが刺身や寿司を目の前で握ってくれます。料理だけでなく、雰囲気でも楽しんでいただきたいと思ったので看板やのれんなどを作り本物の料理屋さんの様にしました。

目の前で握ってくれる寿司は大好評で、普段ミキサー食を食べている方もこの日ばかりは喜んで食べてくれたり、何度もおかわりに足を運んでくれたりで頑張っ準備した甲斐があったなと思います。利用者の方が喜んで食べてくださると前々から準備して少し大変な思いをしてでも、「また次もやりたい」と思えます。

厨房 栄養士 川田 翔也



10月11日、昼前にスーパーに行き穴子を買ひ、昼過ぎに仕事場に入り当日届いたさんまを酔じめし、穴子はぬめりを取り煮穴子を作り玉ねぎをスライスし水にさらし、かつおたたきの用意をして明日のために段取りしました。

12日は朝から寿司飯を作り、8時過ぎに伊丹水産より魚が届き、寿司ネタを切り、まずはかつおたたきを大皿5枚に盛り付けして11時30過ぎに3階に上がり皆様に寿司を握り、昼2時過ぎに下。大変びっくりしたのが、お客様にこれだけ喜んでもらえるとは思っていなく、疲れもなくなりました。本当に良かったと思っています。又よろしく。

厨房 濱路 耕吉

つづれ草紙

百合学園小学校の皆さんが園田苑に敬老行事の一環で来られ、心温まるお手紙とタオルを共にたくさん持ってきて下さいました。

お手紙は皆さん喜んで読まれていました。ありがとうございました。



センターの屋上庭園でさつまいもがたくさん実り、特養入居者でおいも掘り！スイートポテトにしておいしく頂きました☆

食べること、命を守ることにこだわる ～食と手当と看取りの会～



参加させて頂くのは今回で2度目でしたが、やはりわたらい緑清苑さんの東洋医学的な取り組みは何度拝見しても驚くものばかりで、キャベツを頭に巻いての解熱等ゆたかな発想を沢山持たれており、それが効果を上げていることにただただ感嘆するばかりでした。

発表の中で特に感銘を受けたのは、西ノ京苑さんのユニット調理で、ユニットごとに食費の管理、買い出し、3食の調理等、生活の基盤を着実に作っていらっしゃることを素晴らしいと感じました。

発表時の写真を拝見した際にも手際よく調理準備をされているお年寄りがとても生き生きされているように感じました。

そして同時に職員も生き生きとされているように感じました。

お年寄りの生活を支えているという実感があり、お年寄りの生活からエネルギーを貰っているようなそんな印象を受けました。

栄養士は一切の管理をせず、施設自身もそういう考えだから出来ることだと仰っていましたが、当苑でも一部の方に月数回だけでもそのような機会を作ることは可能ではないか、ごく当たり前のことをして頂く機会を設けられるのではないかと考えています。今回の発表を聞かせて頂き新しい糸口の発見になりました。

グループワークでは施設に沢山の不満をもっておられる方がいらっしゃり、話を傾聴していると食事に重点を置いていない、現場が見えていない等のことでした。その話を聞いて、当苑では食に全体で取り組んで頂いていること、個人の生活を見直した取り組みをしている事など環境を整えて頂いている有り難さを再認識しました。

最後のまとめの段階で「この人にしたからあの人にもしなあかん。そうではなくてこの人にしてあげたいからする。そこから始めていきましょう。」と言われていたのが印象的で、どこかで公平性を求めていた点もあったのでこの一言で今後もこの方向で進めていってよいのだという確信がもてました。

日常の中で今まで行ってきたこと、今現在行っていることを振り返る時間がなかったと言えは言い訳になりますが、そういう時間を持たせて頂いたこと、また新たな視点から活動を見直す機会を与えて頂いたことを有り難く思います。

管理栄養士 秋山 友紀子

つづれ草紙



栄養士の川田です。高齢者の食についてお話しします。

なるほど！じゃあ何枚切りだったらいいかな？



食パンは塩分が多いですよ



秋の日に気持ち安らぐ園田苑

詠み人 月秋

10月23日 オレンジカフェそのだ 開店です。

『そのだ会』に参加して

～「生きる」ことは「関わる」こと～



10月30日、園田地区連携会議 そのだ会に初めて参加しました。
今回のテーマは「高齢者の摂食に関わる諸問題」でした。

食べられなくなるまでの予防の観点、食べられなくなった時の対応・判断の観点からの事例が紹介されました。

「食べる」という事は「生きる」という事だと思います。

食べる意欲は生きる意欲ともいえます。生きる意欲を引き出すという観点から、「食べる」事についてもっと考えなければいけないと感じました。

そして「生きる」事は、誰かしらと「関わる」事だと思います。

医療や福祉が必要になった方の生活を支えるために、時には狭く深く、時には広く浅く、医療も福祉も同じように「関わる」のです。アプローチの方法が違うだけです。「明確に考え方・スタンスが違うのだから…」では、いつまでたっても連携はとれません。

「その方の生き方としてどうか？」という事を、医療・福祉とも基本に持ち、その方の地域での生活を支えるために関わる。そういう連携がもっと取れていけばよいと感じました。

特養主任 清水 秀昭

～園田苑からのお知らせ～

11月29日(土):フラダンス。2013年5月にも園田苑に来てくださったフラダンスグループ。尼崎を中心に老人ホームや病院で活躍されているグループです。
14時～2階食堂にて。



11月22日(土):園田地区福祉フェスタ:そのだみつば会(「そのだ地区」社協・地域包括連絡会)が主催するイベント。見守り安心事業や地域福祉活動をされている方など、興味のある方どなたでも申込不要参加無料。園田地区会館で10時～16時まで。

お問合せ 尼崎市「園田南」地域包括支援センターTel06-6494-8087 まで。

編集後記

ドラマに出てきた昔の詩人の言葉。

『愛するに値するか考える前に愛せよ』

『好きにならなげや、好きな理由はわからない』

この仕事にも通じるものがあるなど。

(きりん)

今のセクションで働き出して4年。

笑顔の素敵な人はチームワークが作りやすい。

チームワークが作れるから笑顔が素敵なのか。

自分は素敵な笑顔でいるかしら。(酒浴女)

我が家の長男。学校に行っていないけど中学2年生。

身長は母より大きくなりました。

毎日怒ったり、わめいたり感情の浮き沈みは激

しいですがこんなことを経験していくうちに大人

人になるのでしょう。寂しいやら嬉しいやら。

(きんたろう)

接遇(マナー)研修には、力を入れてきたと思っ

ている。

それでもなかなか難しい。とにかく諦めず、や

り続けることだと思っている。

しかし、最近、「マナー」より「モラル」が問

題と感ずることが多くなっている。

(野の花)